

柏崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子）（案）

I はじめに

1 計画策定の背景・目的

全国的に少子高齢化・人口減少の流れの中で、これらの課題に対応するため戦略づくりが求められています。本市における現在の人口動向や将来の人口推計結果をみると、まちの将来を担う若い世代、特に女性の市外への流出が顕著に見られます。今後も人口減少や少子高齢化が進むことにより、将来的にまちの活力や都市機能の低下を引き起こすことが懸念されます。

そこで、人口減少社会の中で本市の活力や都市機能等を維持し続けるために、若い世代の人口流出をできる限り抑え、柏崎に愛着のある若い世代に帰って来てもらい、新しい市民を増やすという人の流れをつくりだすことが求められます。このため、働く場の確保や暮らしやすい環境づくり、地域を担う人づくり、住みたいと思える地域づくりに取り組むことが重要となります。

2 計画策定の方針

地方創生の実現は、我々地方と国が一体となって中長期的な視点にたって取り組む必要があります。このため、国の「まち・ひと・しごと長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」、新潟県の「新潟県創生総合戦略（仮称）」を勘案しつつ、本市の実情に沿った地域性のある計画とします。

また、柏崎市第四次総合計画の基本理念及び柏崎市第五次総合計画の策定の基本的な考え方を踏まえた計画とします。

3 計画の構成

《柏崎市人口ビジョン》

- ・人口の減少社会にあって、本市の人口減少幅をできる限り抑え、将来にわたって、持続可能な柏崎市を構築することを目指します。
- ・計画期間 = 平成 72 年（2060 年）

《柏崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略》

- ・本市における人口の現状と将来の展望を見通す人口ビジョンを踏まえて、今後 5 か年で重点的に取り組む目標や施策の基本的方向、主要プロジェクトを定め、具体的な施策を着実に進めます。
- ・計画期間 = 平成 27 年度～平成 31 年度の 5 年間

Ⅱ 柏崎市人口ビジョン

1 人口動向

- ・本市の人口は、昭和 30 年から昭和 50 年にかけて減少した人口が、昭和 50 年から平成 7 年までは増加に転じ、平成 7 年をピークに減少し続けています。
- ・自然増減では、出生者数は一貫して減少し続け、平成 13 年からは死亡が出生を上回り、その差が開きつつあります。また、社会増減では、平成 7 年までは転入超過と転出超過が交互に繰り返され、平成 7 年以降は転出が転入を上回り続けています。
- ・特に若い世代の流出が顕著となっています。
- ・一方で、合計特殊出生率は国や新潟県の平均を上回っています。

2 将来人口推計

- ・今後の人口減少が本市の将来の人口に及ぼす出生や移動への影響、また、人口の変化が地域の将来に与える影響等についての分析を行います。
- ・現状のまま推移した場合、**平成 72 年 (2060 年)には、現人口 8. 8 万人の約半数の 4. 2 万人**に減少すると推計されます。
- ・現状の傾向を前提とした将来人口を推計するとともに、その過程において各種人口増加策を積極的に展開した場合の将来人口を推計します。

3 人口の将来展望

- ・将来的には、人口減少は避けられない状況にありますが、本市の将来を担う若い世代が柏崎に愛着や誇りを持って暮らし続けるための有用な施策を積極的に展開します。
- ・特に若い世代の流出を抑制することやU・Iターンによる流入、また、子育て環境の充実による出生率の向上を図ります。
- ・これらの施策を総合的かつ戦略的に進めることにより、**将来展望として、2060 年(平成 72 年)に約 5. 4 万人～7 万人**と推計します。

Ⅲ 柏崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略

1 基本的な視点

本市の総合戦略を推進するにあたっては、次のような基本的な視点を踏まえて取組を進めます。

- ・本市の既存の資源を最大限活用し、それらの資源をもとに施策を連携・拡大し、より効果的な施策展開を図ります。
- ・市民、関係機関・団体等との連携・協働の促進を図ります。
- ・柏崎市第四次総合計画及び柏崎市第五次総合計画と一体となった進行管理と施策の推進を図ります。
- ・国の実効性のある継続的な政策の要請を図ります。

2 最重点目標

本市の将来を担う若い世代にとって、暮らし続けたいと思える魅力的な柏崎市を実現するため、次の最重点目標を定めます。

(仮)「若者が愛着と誇りを持って暮らす」

3 基本目標

本市の総合戦略を推進するにあたって、国の総合戦略で掲げる4つの政策分野を勘案した上で、次の基本目標を定めます。

● 地域産業の振興を図り雇用の場をつくる

若者が将来に夢を持ち、安心して暮らし続けることができるよう、地域産業の活性化をさらに進めながら新しい産業の創出や起業育成に積極的に取り組むことにより雇用の場の確保に努めます。

● 子どもを生き育てやすいまちをつくる

子どもを持ちたいと望む人が安心して子どもを産み、働きながら子育てができる環境づくりや、子育てを地域全体で支える仕組みづくりを進めます。

● 地域の活力を担う人材をつくる

地域活動や産業活動を担う人材の確保及び技術の継承、高度化を目指して、大学や関係機関と連携しながら柏崎に愛着を持ち、将来の柏崎を担う人材の育成に取り組み

ます。

● 定住を促す魅力あるまちをつくる

良好な都市イメージを創出し、市内外へ効果的に発信していくことで、市民の柏崎への誇りや愛着の醸成を図り、人口の定着につなげていくとともに若者の回帰や移住志向を持つ人を引きつけ、定住人口の増加を進めます。

4 基本的方向

総合戦略全体を先導していく4つの基本目標ごとに主要プロジェクトを設定します。さらに5か年間の計画期間内に優先的かつ重点的に進める施策を重点プロジェクトとして位置づけ、各種施策を積極的に進めます。

● 地域産業の振興を図り雇用の場をつくる

(1) 雇用対策の強化を図る

※K P I (重要業績指標を設定する)

○若者雇用促進プロジェクト(重点プロジェクト)

若者の雇用創出に向けた就労支援の充実を図るとともに、雇用関連の公共職業訓練の拡充や雇用のミスマッチの解消に努め、新規高卒者などの地元定着を促進します。

○新産業・起業育成プロジェクト

新産業創出、起業に対する支援を拡充し、創業・起業しやすい環境をつくりま

す。

(2) 地域産業の振興をさらに進める

※K P I (重要業績指標を設定する)

○地域産業活性化プロジェクト

本市の基幹産業である機械金属工業における積極的な事業活動の展開と競争力強化を促進するため、設備投資に対する支援などにより、地域産業の振興を図ります。

○電力事業自由化プロジェクト(新規)

平成28年度からの家庭を含む電力小売りの全面自由化を見据え、企業誘致の促進や新電力の活用策などの検討を進めます。

● 子どもを生き育てやすいまちをつくる

(1) 地域で子育てを支援する

※K P I (重要業績指標を設定する)

○子育てサービス推進プロジェクト (重点プロジェクト)

安心して子どもを生き育てられるよう、多様な子育てサービスの提供を充実するとともに、地域全体で子育てを支援する仕組みづくりを進めます。

○ワーク・ライフ・バランス促進プロジェクト

子育てする時間が確保できるよう、多様な勤務形態の導入、所定外労働時間の縮減、育児・介護休業の取得促進など、男女ともに柔軟な働き方の選択を可能とするワーク・ライフ・バランスを推進します。

(2) 若者の出会いの場をつくる

※K P I (重要業績指標を設定する)

○若者交流プロジェクト (新規)

生涯学習活動やスポーツ活動などを通じた若者の出会いの場の創出や、子育て世代が交流できる場の充実を図ります。

○結婚活動支援プロジェクト

結婚を望む市民の希望をかなえるため、結婚活動支援事業などを進めます。

● 地域の活力を担う人材をつくる

(1) 地域産業を担う人材をつくる

※K P I (重要業績指標を設定する)

○若者リーダー育成プロジェクト (重点プロジェクト)

若者が夢を持ち、将来の展望を切り開いていけるよう、産官学の連携によるキャリア教育や柏崎リーダー塾事業、柏崎・社長のたまご塾事業など、未来の柏崎に必要な人材の確保・育成を進めます。

○ものづくり技術継承プロジェクト

新規学卒者の地元定着を促進するため、ものづくり技術を中心としたインターンシップや、実務型の職場研修事業の拡充など、本市のものづくり産業を理解する仕組みづくりを、高校、大学と連携しながら検討します。

(2) 愛着や誇りを育む人材をつくる

※K P I (重要業績指標を設定する)

○誇り教育プロジェクト (新規)

小学校での総合学習や地域の文化や風土を学習できる「WEB ミュージアム事業」等を通して、子ども達が自身の住むまちに対し、愛着を深め、誇りの持てる人材の育成を進めます。

○地域人材育成プロジェクト (新規)

11月にオープンする市民活動センターを拠点として、これからの地域活動を担うリーダーや市民活動団体の育成を積極的に進めます。

● 定住を促す魅力あるまちをつくる

(1) 柏崎らしさを創出する

※K P I (重要業績指標を設定する)

○シティセールス推進プロジェクト (重点プロジェクト)

人やもの、企業、資金、情報などを引きつけ、地域産業の活性化を図るシティセールス事業をさらに推進し、市民をはじめ多様な主体が本市の魅力を磨き、創出しながら市内外に向けて発信していきます。

○地域コミュニティ活性化プロジェクト

住みよい地域社会を実現するため、集落や地域コミュニティなどにおける様々な課題に対して、人々が集い、自発的に取り組むことができるよう支援します。

(2) 若者の定住を促進する

※K P I (重要業績指標を設定する)

○若者回帰プロジェクト (新規)

若い世代を呼び込む取組として、Uターン対策を積極的に進めます。さらに都市部の人材を地域社会の担い手として新たに受け入れ、地域活性化につなげる「地域おこし協力隊」の活用や柏崎の生活情報を積極的に情報発信するとともに、転入後の住居に対する支援や空き家対策等の検討を行います。

○新卒者定着プロジェクト (新規)

若い世代の人口流出対策として、新規学卒者の地元大学への進学や地元企業への就職支援をさらに進めます。加えて、産学官が一体となって就労支援のためのインターンシップ制度の充実を図ります。